

プレスリリース
PRESS RELEASE
2015/1/5

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

アーツ前橋企画展

音色を奏でる絵画たち

県内コレクションで辿る近代絵画の歩み

2015 年 1 月 24 日（土） — 2015 年 3 月 10 日（火）



清水刀根《ランプのある抽象》 油彩



コンセプト

本展では、前橋市所蔵作品のみならず高崎市美術館、公益財団法人大川美術館、県内個人コレクションの作品群の中から視覚や聴覚へ訴えかけるような色彩豊かな作品を中心に展示いたします。

19世紀後半以降、現実を写實的に表現するという絵画の側面は次第にその役割を失っていきます。そのような状況の中で近代の画家たちはまったく新しい絵画表現を模索していきます。なかでも、クレーやカンディンスキーのような画家たちは音楽における音の調和を美術の分野において目指すことにより、モチーフが溶け合い色彩のみによる表現に辿りつきます。このような色彩による絵画の流れは、瑛九やオノサトシノブのような20世紀を代表する日本の前衛画家たちにも大きな影響を与えます。本展を通じて、県内コレクションの豊かさを感じていただくと共に、20世紀美術の最大の想像力である色彩のリズミカルな世界へ皆さまを誘います。

開催概要

展覧会名：音色を奏でる絵画たち 県内コレクションで辿る近代絵画の歩み

会 期：2015 年 1 月 24 日（土）～ 2015 年 3 月 10 日（火）

会 場：アーツ前橋（群馬県前橋市千代田町 5-1-16）

開館時間：11 時から 19 時まで（入館は 18 時 30 分まで）

休 館 日：水曜日 ※2 月 11 日の建国記念日は開館し、翌日休館

観 覧 料：無料

主 催：アーツ前橋

助 成：平成 26 年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

参加作家名：

【国外作家】

パウル・クレー Paul Klee

ソニア・ドローネ Sonia Delaunay

ジョアン・ミロ Joan Miro

【国内作家】

瑛九 EI-Q

岡野勇仁 OKANO Yujin

オノサトトシノブ ONOSATO Toshinobu

笠木実 KASAKI Minoru

金子英彦 KANEKO Hidehiko

加納光於 KANO Mitsuo

川隅路之助 KAWASUMI Michinosuke

川端実 KAWABATA Minoru

倉田角次 KURATA Kakuji

近藤嘉男 KONDO Yoshio

佐藤敬 SATO Kei

塩原友子 SHIOBARA Tomoko

清水刀根 SHIMIZU Tone

武澤久 TAKEZAWA Hisashi

プレスリリース
PRESS RELEASE
2015/1/5

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

田村清男 TAMURA Kiyoo
中村節也 NAKAMURA Setsuya
南城一夫 NANJO Kazuo
難波田龍起 NANBATA Tatsuoki
難波田史男 NANBATA Fumio
野村誠 NOMURA Makoto
深谷徹 FUKAYA Toru
福沢一郎 FUKUZAWA Ichiro
福田貂太郎 FUKUDA Tentaro
山口薫 YAMAGUCHI Kaoru

27 作家、47 作品

本展のみどころ

●音から導かれる色彩

19 世紀後半から 20 世紀初頭のヨーロッパにおける芸術運動の中で、「音」や「音楽」の果たした役割はとても大きいものでした。今回最初に紹介するスイス生まれの作家パウル・クレーは、小さなころから音楽に親しみ、自身もヴァイオリニストでもありました。彼の作品の中には、「ポリフォニー（多声音楽）」という音楽の用語がタイトルに使用されることもあり、音楽が彼の絵画作品のモチーフとなることもありました。音楽の響きの持つ調和を絵画世界に応用することにより、絵画作品のモチーフは次第に色彩に溶けてゆき、その形が消滅していきます。そのような、絵画の動きは、当時の多くの作家に見受けられるものでした。なかでも、今回、クレーと共に紹介するソニア・ドローネやジョアン・ミロもまた色彩による抽象作家として代表的な存在といえます。また、加納光於の作品は《五線譜》と題され、まさに音楽的な要素を絵画的に表現することで、その楽譜の音さえ聞こえてくるような色彩の躍動感を感じさせます。



*パウル・クレー 1879-1940

スイス生まれ。父親は北バイエルン生まれのドイツ人で、音楽教師であり、母親もまた音楽に造詣が深かった。また、妻のリリー・シュトゥンプフはピアニストであり、生涯クレー自身も音楽に親しみ、ベルン市の管弦楽団員（ヴァイオリニスト）でもあった。

ミュンヘンの美術学校で学んだ後、カンディンスキーやマルケらと共に「青騎士」の展覧会に参加する。1921 年から 1931 年の間、バウハウスで教鞭をとるかたわら、ニューヨークやパリで個展が開催されるが、1933 年にナチス政権が成立すると、前衛芸術の旗手であったクレーは弾圧の対象となり、生まれ故郷のスイスへと亡命する。

パウル・クレー 《ドイツ国旗のある朝食》 1914 年 水彩 公益財団法人大川美術館蔵



加納光於 《五線譜》 1969 年 レリーフプリント 公益財団法人大川美術館蔵

●モノクロームのリズム

日本の前衛美術を牽引する存在であった瑛九は、1920年代半ばから本格的な作家活動を開始し、油彩画のみならず様々な表現方法を試みます。その中でも、特に独自の方法を展開させたのが「フォト・デッサン」でした。瑛九自身が「フォト・デッサン」と呼んだ技法は、もとはフォトグラムと呼ばれ 20 世紀初頭のヨーロッパでマン・レイやモホリ＝ナジといった作家たちが好んだ写真技法でした。印画紙の上に直接物体を置き感光させることによって、幻想的なモノクロームのイメージ像を浮かび上がらせます。本展では、県内の個人コレクション収蔵の貴重な瑛九コレクションの中から 10 点のフォト・デッサンを初公開いたします。作家の意図と、ある種の偶然性から生まれたフォト・デッサン独特のフォルムは見るものに軽快なリズムを感じさせます。瑛九は、音楽について以下のように述べています。「音楽が偉大な空想を私に湧き起こすことがよくある。自分はそれを聞いて居ると、非常な制作欲を感じる。」音楽という聴覚の刺激が、画家のなかで視覚芸術を生み出す一つのきっかけになっていたともいえるのかもしれません。



* 瑛九 1911-1960

宮崎県生まれ。本名は、杉田秀夫。1925 年、日本美術学校洋画家に入学し、東京で下宿生活を始める。この頃、詩や美術評論を多く残している。1930 年に、オリエンタル写真学校に入学。1935 年最初の印画紙による作品を『眠りの理由』と題して刊行する。この時から、瑛九という名を使用し始める。1940 年代からは、むしろ絵画や版画の制作を意欲的に行う。1951 年、「デモクラート美術家協会」を結成。群馬出身の画家・オノサトシノブとも深い親交があった。

瑛九 題不詳 フォト・デッサン 新田安紀芳氏蔵

●前橋市収蔵作品の展示

前橋市では、アーツ前橋オープン以前から長い年月をかけ美術作品を収集してきました。群馬郡箕輪村（現・高崎市箕郷町）出身で全国的に活躍した山口薫の《沼のある牧場》はじめ、前橋出身で日本画の世界で前衛的な活動を行う塩原友子の作品など本展では約 30 点の収蔵作品をまとめて公開いたします。また、沼田市出身で画家として活躍するのみならず、「やまだや画廊」の開設により群馬の前衛活動を牽引した金子英彦の作品のような、昨年度新たに収蔵となった作品も公開されます。

●絵画×音楽

本展では、2013 年に開催されたプレイベント vol.21 平成 24 年度 前橋市収蔵美術展「はじまる道」の関連ワークショップ「絵画×音楽」を通じて生まれた野村誠作曲の《ピアノのための 9 つの小品「アーツ前橋」》を初めて公開いたします。ヘッドフォンから流れる音楽を聴きながら絵画を鑑賞することで、視覚と聴覚を駆使した新しい作品鑑賞を提案します。

また、会期中には、水と緑と詩のまち前橋文学館にもご協力いただき、詩の朗読や音楽、演劇の公演もお楽しみいただけます。詳しくは、アーツ前橋公式サイトをご覧ください。

* 野村 誠

作曲家・ピアニスト・鍵盤ハーモニカ奏者。日本センチュリー交響楽団コミュニティ・プログラム・ディレクター。千住だじゃれ音楽祭音楽監督、日本相撲間芸術作曲家協議会理事。第 1 回アサヒビール芸術賞。CD に『ノムラノピアノ』（とんつーレコード）ほか、著書に『音楽づくりのヒント』（音楽之友社）ほか。06 年度、NHK 教育テレビで音楽番組『あいのて』を監修。自身も赤のあいのてさんとしてレギュラー出演する。

関連イベント

◎学芸員によるギャラリートツアー

1月24日（土）、3月8日（日）

各日 14時より約30分

[申込不要、開始時間に受付へお越しください。]

◎こどもアート探検

1月31日（土）、2月28日（土）、3月7日（土）

各日 14時より約30分 中学生以下

[事前予約制、お電話にてお申し込みください]

◎アーツ前橋「音色を奏でる絵画たち」展関連イベント

文学×音楽×演劇×美術

本展覧会会期中の以下の日程で、詩の朗読や音楽をアーツ前橋のギャラリー空間でお楽しみいただくイベントを開催いたします。

☆2月14日（土）14時から17時（全6回）

前橋ポर्टレート

展示物のないアーツ前橋の中を回遊するツアー型演劇作品

☆2月15日（日）14時から15時30分

組曲 水と緑と狼

「水と緑」をテーマに前橋市民から募集した詩を、音楽と共に上演するプログラム

☆2月21日（土）13時から14時、15時から16時

アーツ前橋ぐるぐるクエスト～ひみつの美術館

ミッションをクリアしながらふだんは見ない「アーツ前橋」を再認識する体験型プログラム

☆2月22日（日）17時から19時

中島ノブユキ新作『une petite fille / 少女 (theatre.ver.)』

ソロピアノ＆ギャラリー回遊ライブ

* 詳細は、ホームページにて随時お知らせいたします。

図版



1



2



3



4



5

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期を表記してください。
- ・写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ先

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当 山田（広報担当）、今井（学芸担当）

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 [http : //www.artsmaebashi. jp](http://www.artsmaebashi.jp)

E-MAIL : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

●公共機関

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で

約 15 分



アーツ前橋企画展「音色を奏でる絵画たち」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像（JPEG）をメールにてお送りいたします。

* 本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供致します。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。

* 掲載にあたっては、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	画像キャプション
1	パウル・クレー 《ドイツ国旗のある朝食》 1914 年 水彩 財団法人大川美術館蔵
2	瑛九 《作品》 1959 年 油彩 高崎市美術館蔵
3	清水刀根 《ランプのある抽象》 油彩 前橋市蔵
4	山口薫 《沼のある牧場》 1964 年 油彩 前橋市蔵
5	塩原友子 《風化》 1998 年 岩彩 前橋市蔵

媒体情報 * できるだけ詳しくご記入ください

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	